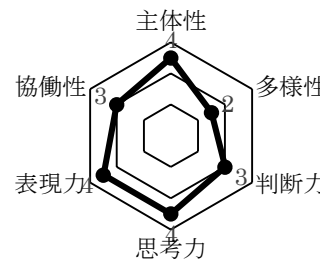
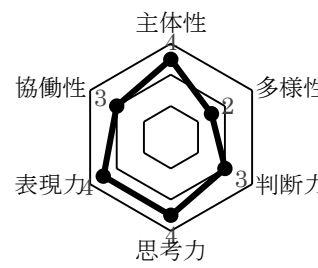


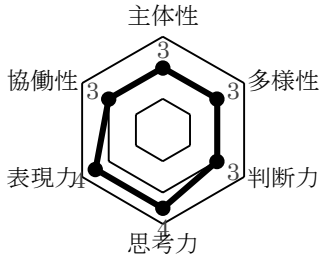
2025年度「プロジェクト研究1」シラバス

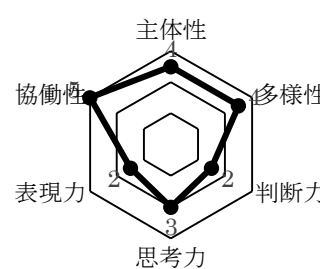
テーマカテゴリ	プロジェクトNo.	プロジェクト名	教員	ページ
麒麟	1	鳥取の水産物を使った加工食品を考案しよう	太田 太郎	1
	2	学校の適正規模を考える～学校の小規模化と統廃合～	川口 有美子	2
	3	鳥取を元気にするイベントをプロデュースする	齊藤 哲	3
	4	麒麟地域に暮らす人々の生活の過去・現在・未来	下境 芳典	4
	5	OpenStreetMapによる鳥取ガイドの試み10 - QGISを使った案内図作成 -	中治 弘行	5
	6	考現学～観察を通して社会を読み解く～	山口 創	6
	7	鳥取県の穴場温泉を発見しよう	兪 成華	7
	8	「〇〇王国、鳥取」を構想する。	吉永 郁生	8
	9	まちなかの国際化を調べよう	連 宜萍	9
SDGs	10	コンパクトシティについて深く調べよう	岩田 健吾	10
	11	春夏の自然探索:生物の多様性を調べる	笠木 哲也	11
	12	私たちのくらしとごみ	金 相烈	12
	13	エネルギー自立と持続可能なまちづくり	甲田 紫乃	13
	14	福祉とSDGsとの関連を考えてみよう!	佐藤 彩子	14
	15	大学生の自由研究	高井 亨	15
	16	公立鳥取環境大学のヤギをテーマに人と動物の共生のかたちを考えよう	谷口 晴香	16
	17	健常者と障がい者の共生について考える	藤木 善夫	17
	18	学内の社会的資源を訪問し、学生生活のQOLを高める。	藤田 恵津子	18
グローバル	19	国際報道などを通して世界の今に関心を持ち、探求し、考えよう	相川 泰	19
	20	パレスチナ問題を考える	荒田 鉄二	20
	21	Think Globally, Act Tottori	加藤 禎久	21
	22	Japanese and world news	ジョーン パンゲイル	22
	23	南極を知ろう	徳田 悠希	23
	24	英語を使って楽しもう	徳山 瑞文	24
	25	「コミュニケーション力を比較する」	中村 弘子	25
	26	鳥取でグローバル社会を考える	柚洞 一央	26
	27	ニュージーランドの算数教科書を読む	吉田 聡	27
一般	28	三朝温泉ユニバーサルツーリズムの提案	老田 智美	28
	29	pythonでオリジナルゲームを作ろう!!	市丸 夏樹	29
	30	クレイメーションを作ろう	今井 正和	30
	31	歴史上の出来事や伝承・伝説・行事の「意味」を解釈する。	川崎 紘宗	31
	32	バイタルサインデータとSD法を用いたクアオルト療法の定量的評価A	重田 祥範	32
	33	テニスの科学	戸蒔 丈仁	33
	34	あなたのまちはどんなまちか?	西村 教子	34
	35	「不登校・引きこもり」とSNSとの関係を考える	光山 博敏	35
	36	ガーデニングと地域の経営課題	吉田 高文	36

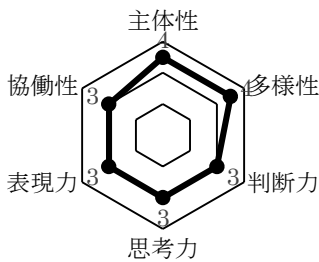
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	太田 太郎																							
授業の概要	キーワード： 水産物、食品加工、特産品 ＜テーマ＞ 鳥取の水産物を使った加工食品を考案しよう ＜概要＞ 鳥取では四季を通じ、多様な水産物が水揚げされ、これらは、生鮮品として流通・販売されるだけでなく、様々な加工食品の原料として利用されます。水産物は、畜産物と比べ加工食品の原料としての汎用性が高いため、ちくわなどのねり製品、塩辛等の発酵食品、干物などの塩干品、フライ用の一次調理品、さらには健康食品の原材料等、多様な形で利用されています。また、水産物を加工することで、保存期間を長くすることが可能となるだけでなく、生鮮では廉価な魚、未利用魚や未利用部位に付加価値を付けることも出来ます。本課題では、鳥取の豊富な水産物を材料とし、新たな特産加工品を考案することを目指します。課題を通じ、水産物の生態や漁獲実態、さらには食品化学的な特性や加工方法等について総合的に学習することを目指します。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、学生同士さらには地域の方々と協働しながら行動することを重視します。また、学生が主体的に立案した計画に基づき活動し、最終的には課題解決に必要な高い判断力や思考力を身につけることを目指します。																							
授業計画	1. ガイダンス・自己紹介・個人課題の提示 2. 地元の水産物販売施設の訪問 3、4. 個人課題の発表 5. 個人課題の発表・班分け 6. 活動計画策定（班別） 7、8. 調査活動（班別） 9、10. 試作品づくり（公民館・調理室） 10. 試作品づくり（公民館・調理室） 11. 中間報告会（討論） 12、13. 発表準備 14. 発表練習 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	研究への取り組みを総合的に判断し評価 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	インターネットや書籍による情報収集、講義時間外の調査活動についても、各自積極的に取り組むこと。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td>●</td><td></td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る	●			学内で活動	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る	●			学内で活動																				
時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： 特になし ◆参考書： 特になし																							

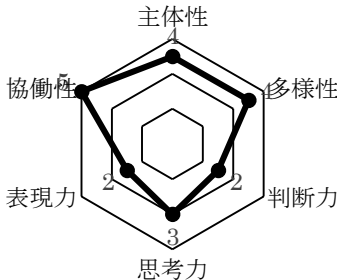
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟									
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期									
教 員 名	川口 有美子																	
授業の概要	キーワード： 学校の適正規模・学校の小規模化・学校統廃合 ＜テーマ＞ 学校の適正規模を考える～学校の小規模化と統廃合～ ＜概要＞現在、小・中学校 1 学級あたりの人数は、小学 1～6 年生で 35 人、中学 1～3 年生で 40 人を標準に（令和 8 年度以降中学生も段階的に 35 人の予定）、そして、学校の適正規模（標準）は 12～18 学級という制度になっている。しかしながら、少子化に伴い 1 学級の人数や学校全体の学級数も標準を下回り、学校の小規模化や統廃合が全国で進行している。鳥取県東部における学校訪問調査も行いながら、小・中学校の適正規模について追究する。																	
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。 本プロジェクトでは、まず「主体性」を持って当該テーマに向き合うことを第一とする。そして、自分なりに課題や疑問を持ちながらしっかりと「思考」し、見聞したものに対する価値「判断」をする。そして、それを言語で「表現」し、他者の「多様性」を積極的に受容し、「協働」しながら研究の成果をまとめていくことをめざす。 																	
授業計画	1. オリエンテーション：テーマにかかわる専門用語・概念の学習 2. 情報収集：受講生各自の出身地域における学校統廃合の実態・再編計画 3. 情報収集：受講生各自の出身地域における学校統廃合の実態・再編計画 4. 報告と協議：出身地域における学校統廃合の実態・再編計画 5. 報告と協議：出身地域における学校統廃合の実態・再編計画 6. 情報収集と協議：鳥取市における学校再編計画 7. 訪問調査①：鳥取県東部（鳥取市）の学校 8. 訪問調査②：鳥取県東部（鳥取市）の学校 9. 訪問調査のまとめ 10. 発表会に向けた構想検討（コンテンツ・役割分担等） 11. 発表会に向けたプレゼンテーションの作成 12. 発表会に向けたプレゼンテーションの作成 13. 発表会リハーサル 14. 発表会リハーサル、WEB 登録 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td>●</td><td>2 人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視	●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視	●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容	●	2 人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視	●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																
教員と学生の双方向性を重視	●	学生同士の双方向性を重視																
個人による単独活動を許容	●	2 人以上のグループ活動が必須																
評価方法	毎回の活動状況と成果物作成における貢献度等、総合的に評価する。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視	●	各回、または複数回ごとの成果を重視						
最終成果物の完成を重視	●	各回、または複数回ごとの成果を重視																
講義外での学 習	学校教育にかかわる情報を積極的に得ておくこと（新聞・インターネット等）。																	
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 訪問調査の予定（実施日・訪問校）は先方の都合や感染状況等で変更することもある。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る	●	学内で活動	時間割通りの実施	●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●	他にも何らかの成果物を作成																
学外フィールドに出る	●	学内で活動																
時間割通りの実施	●	他の曜日の集合あり																
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： なし																	

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	齊藤 哲																							
授業の概要	キーワード： プロジェクトマネジメント、プロセスの見える化、PDCA サイクル ＜テーマ＞ 鳥取を元気にするイベントをプロデュースする ＜概要＞ 学生自ら「鳥取を元気にするために開催したいと考えるイベント」を設定し、そのイベントをプロデュースするためにやるべきことを考えます。通常、イベント実施までのプロセスはチームで行うため、見える化が重要です。また、見える化したプロセスは、PDCA(Plan:計画, Do:実行, Check:評価, Action:対策・改善) サイクルを回しながら、成功に近づけていきます。本プロジェクト研究では、このイベントを成功に導くプロジェクトマネジメントの手順を体感します。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、次の 3 つの能力を特に重要視します。 (1) 主体性…積極的に参加する。 (2) 思考力…筋道を立てて考える。 (3) 表現力…考えたことを、的確に相手に伝える。																							
授業計画	1. イントロダクション（自己紹介、研究の概要など） 2. 研究テーマ(イベント)の立案 3. 研究テーマ(イベント)の計画 4. プロジェクトマネジメントの調査・分析(1)-作業の細分化- 5. プロジェクトマネジメントの調査・分析(2)-作業の細分化- 6. プロジェクトマネジメントの調査・分析(3)-スケジュールの作成- 7. プロジェクトマネジメントの調査・分析(4)-スケジュールの作成- 8. 中間レビュー 9. 研究テーマ(イベント)の詳細化(1) -リスクへの対応- 10. 研究テーマ(イベント)の詳細化(2)-リスクへの対応- 11. 研究テーマ(イベント)の詳細化(3)-収支計画、パンフレット作成- 12. 研究テーマ(イベント)の詳細化(4)-収支計画、パンフレット作成- 13. 発表準備(1) 14. 発表準備(2) 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td></td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	講義・課題に取り組む姿勢、グループへの貢献度、発表内容などを総合的に評価する。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	講義中に学習のヒントとなる課題を出すので、提出すること。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： 特になし。 ◆参考書： 必要に応じて紹介する。																							

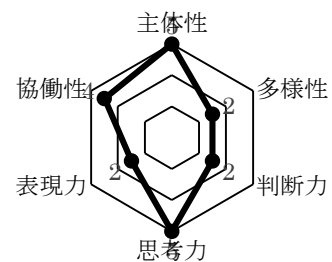
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	下境 芳典																							
授業の概要	キーワード： 民俗、風習、伝承 ＜テーマ＞ 麒麟地域に暮らす人々の生活の過去・現在・未来 ＜概要＞ 歴史の教科書は権力者の移り変わりを中心に記述されていて、その時代に普通に生活していた人々のことはあまり書かれていません。このような庶民の歴史を研究する「民俗学」という学問があります。大学周辺地域の民俗に注目して、本には書かれていない歴史をみんなで調査しましょう。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、グループごとに麒麟地域の民俗学的な研究テーマを設定し、現地調査を行い、その結果を発表することで、右記の到達目標の達成を目指します。特に大学生として必要な表現力、思考力の向上を狙いとします。																							
授業計画	1. 履修確認・初回ガイダンス 2. 受講生の自己紹介・グループ分け 3. 民俗学について文献調査 4. グループ研究テーマの設定 5. フィールド調査の準備 6. フィールド調査① 7. フィールド調査② 8. フィールド調査の結果中間発表 9. フィールド調査③ 10. フィールド調査④ 11. フィールド調査の結果発表 12. 調査結果の取りまとめ・考察 13. 発表準備① 14. 発表準備② 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	グループワークの貢献度等を、学生同士の相互評価も含めて総合的に評価する。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	学外での情報収集や講義時間外の活動が必要となり得る。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： 使用しない。 ◆参考書： 適宜紹介する。																							

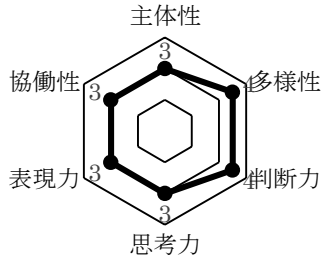
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	中治 弘行																							
授業の概要	キーワード： オープンデータ、GPS、OpenStreetMap、GIS <テーマ> OpenStreetMap による鳥取ガイドの試み 10 - QGIS を使った案内図作成 - <概要> GPS・GIS を活用する上で重要となる地図データの自由な利用を目的とする OpenStreetMap (OSM) プロジェクトを理解し、大学周辺など鳥取市内の地図データ作成手法を身に付け、ガイドマップの作成を目指す。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、特に主体性と協働性の発揮、向上を期待します。																							
授業計画	1. イントロダクション・グループ分けなど 2. OSM の概要や大学周辺に不足している地図情報を把握する 3. OSM への地図情報登録方法を学ぶ 4. 調査範囲や調査対象を決めて OSM への地図情報登録や更新を進める 5. 同上 6. 同上 7. 同上 8. QGIS を用いた案内図の作成を進める 9. 同上 10. 同上 11. 同上 12. 同上 13. 発表準備 14. 同上 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td></td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	取り組み状況 (60%) と成果物 (40%) により評価する。出席の加点はしないが、欠席は減点材料になる。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	地図の作成には町歩きが必須となり、時にはその様子を不審に思われる事態も想定されるので、学外での活動に当たっては特に責任感を保ち、単独行動を避けること。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： 特に指定しない ◆参考書： 特に指定しないが、ノート PC を毎回持参すること。GPS 機能を持ったスマートフォンなどを持っているとよい。																							

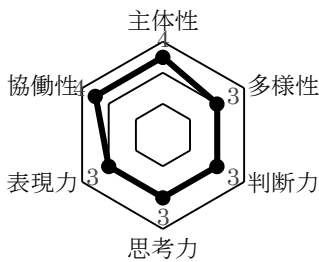
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	山口 創																							
授業の概要	キーワード： 考現学、フィールド調査（観察） ＜テーマ＞ 考現学～観察を通して社会を読み解く～ ＜概要＞ 考現学とは、昭和初期に今和次郎らが提唱した学問で、一見すると取るに足らないような人々の行動、物事などの観察、データ収集を通して世俗、風俗の考察を試みるものです。今らは、街ゆく人々の服装、女性の髪型、露天商の人寄せ方法などの調査から、昭和初期の東京の生活や風俗を描き出しました。本プロジェクト研究では、実際に人々や物事の観察、データ収集に取り組み、人々の暮らしや鳥取という土地について考えてみたいと思います。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 プロジェクト研究 1 では、テーマ設定や考察を学生同士のディスカッションを通してすすめることにより主体性や多様性を身につけることを目標とします。																							
授業計画	1. オリエンテーション 2. 予備調査、グループ分け 3. テーマ設定 4. テーマ設定 5. 調査方法の検討 6. 調査方法の検討 7. フィールド調査 8. フィールド調査 9. フィールド調査 10. 結果のとりまとめ、考察 11. 結果のとりまとめ、考察 12. 結果のとりまとめ、考察 13. 発表準備 14. 発表準備 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	最終成果物 50%、授業の取組状況 50%で評価 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習																								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： ◆参考書：																							

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	後期
教 員 名	俞 成華								
授業の概要	キーワード： 穴場温泉、PR、観光スポット								
	<テーマ> 鳥取県の穴場温泉を発見しよう <概要> 鳥取のまちなかには、吉方温泉町、末広温泉町、永楽温泉町など“温泉”に関係ありそうな地名がいくつか存在します。実に鳥取の中心市街地にわく“天然温泉”が多数存在しています。 都会の喧騒から離れ、新たな日常やコミュニティを築くことができる“サードプレイス”として、年々注目が高まる温泉ですが、地元の人々はどんな温泉を愉しんでいるか。本研究プロジェクトでは、鳥取県の周辺の観光スポットと合わせて、穴場として、ユニークな温泉を発見・アピールしよう。								
到達目標	プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を養成することです。プロジェクト研究1では、自分の意見を作る「主体性」、異なる立場や意見を適確に理解する「多様性」、様々な人とともに目的を達成しようとする「協働性」を身につけることを目標とする。								
授業計画	1. 授業概要の説明 2. チーム分け、調査対象の選定 3～5. 文献学習、調査計画の作成 6～8. 調査の実施、データ収集と分析 (穴場温泉及びその周辺街のフィールドワーク 2回) 9. 中間報告 10～12. 調査の継続、データ収集と分析 (穴場温泉及びその周辺街のフィールドワーク 2回) 13～14. プレゼンテーションの準備 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須				
	授業態度、発言、チームワーク、発表内容、個人レポート、聴講等を総合的に評価する。								
評価方法	最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視				
講義外での学 習	・参考書や資料を読む。 ・次回の作業を考えて、事前にデータ収集など準備をする。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●	他にも何らかの成果物を作成					
	学外フィールドに出る		●	学内で活動					
	時間割通りの実施		●	他の曜日の集合あり					
教 材	◆教科書： 特に指定しない。 ◆参考書： 授業中に随時紹介する。								

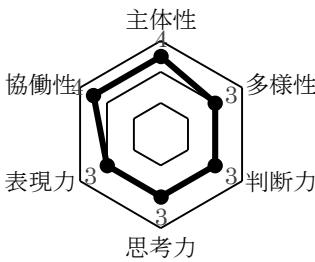
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	吉永 郁生								
授業の概要	キーワード： 地方創生、麒麟地域								
	＜テーマ＞ 「〇〇王国、鳥取」を構想する。 ＜概要＞鳥取を含む山陰地方の社会や経済、文化は、鳥取の自然環境や歴史と密接に関わっています。鳥取県の地方創生を考えるうえで、鳥取市や兵庫県北部を含めた町村群から成る「麒麟地域」で、今後目指すべき地域社会「〇〇王国」を構想します。そのためにこの地域の独自性、他地域との比較優位・劣位を探るところから始めます。								
到達目標	プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、学生各々が自ら鳥取に望む未来をイメージすることが重要です。そのために、公開データや信頼できる情報サイト（書籍を含む）にアクセスし、正確にその情報を読み取る力が大切です。活動は個人活動とグループ活動の両方がありますが、特に主体性と思考力を重視します。								
授 業 計 画	1. ガイダンスと背景の説明 2. 個人研究計画発表 3. 個人発表 4. 個人発表 5. 個人発表 6. 個人発表 7. グループ研究計画 1 8. グループ研究計画 2_研究計画発表 9. 研究実施 10. 研究実施 11. 研究実施_中間発表 12. 研究実施 13. 研究実施 14. 発表準備 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視			●		学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容			●		2人以上のグループ活動が必須			
	評価方法								
個人の発表内容とグループ研究の発表内容、およびそれに関連した討論で評価します。									
最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視				
講義外での学 習	場合によっては、講義外、学外での活動があります。また、同一日に4限・5限を通して実施することもあります。事前に皆さんと相談します。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とします。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●			他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る			●		学内で活動			
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： ◆参考書：								



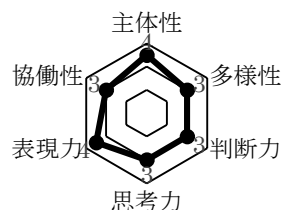
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	麒麟
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	連 宜萍（専任）								
授業の概要	キーワード： 国際化、異文化、国際交流								
	<テーマ> まちなかの国際化を調べよう <概 要> 経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）は国境を越えて移動しています。我々は海外に行かなくても、常に外国の商品を買って使って、外国の情報を得て、外国語の案内表示を見て、外国人と触れ合うチャンスがあります。本プロジェクトでは、まず町中や周りの国際化の現状を見て調べます。今後ますます国際化が進むなかで、日本はどう変わるか、どう対応すべきかなどを調査し明らかにします。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトではまちなかの国際化についての現状を考察したうえで、ブレインストーミングと KJ 法を用いて自ら研究課題を設定します。まちなかの国際化の問題は何かを発見するために、グループメンバーと議論することを通じて情報収集、調査計画、実施方法等を学習します。								
授 業 計 画	1. イントロダクション 2. ブレインストーミング、研究テーマを決め、チームを分けます 3. 国際化の現状を把握します 4. 調査の質問票を作成し、調査計画を立てます 5. フィールド調査の準備・計画について報告します 6. 調査の実施 7. 調査結果の報告、ディスカッション 8. 調査の実施 9. 調査結果の報告、ディスカッション 10. 調査の実施 11. 調査結果の報告、ディスカッション 12. 研究成果まとめ 13. 研究成果まとめ 14. 成果物のアップロード、発表リハーサル 15. 公開発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視					●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視				●		学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容				●		2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	グループディスカッションへの参加、プロジェクトへの貢献（とりわけ他のグループへの貢献的なコメント）、成果物等を総合的に評価します。								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	講義時間は主に発表や検討に使うため、グループ議論やフィールド調査、パワーポイントの作成は講義時間外で行うこと。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成				●		他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る				●		学内で活動		
	時間割通りの実施				●		他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： ◆参考書： 授業中に必要に応じて指定する。								

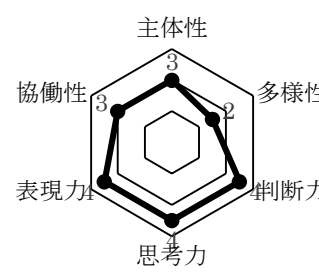
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	岩田 健吾																							
授業の概要	キーワード： コンパクトシティ、都市政策、LRT、スプロール現象 ＜テーマ＞ コンパクトシティについて深く調べよう ＜概要＞ 「コンパクトシティ」は SDGs の 11 項「住み続けられるまちづくりを」に直結する重要なテーマである。本プロジェクト研究は、コンパクトシティの可能性や課題について多角的に考察し、専門知識やエビデンスベースの話題にも触れながら、学生自らが主体的に考え、自身の視野を広げることを目指す。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。 本プロジェクトでは、学生自らが主体的に考えることを重視し、特に協働性を養うことを目的とする。 																							
授業計画	1. ガイダンス（自己紹介など） 2. グループにおける研究テーマの選定 3. グループにおける研究計画の策定 4. グループでの研究活動① 5. グループでの研究活動② 6. グループでの研究活動③ 7. グループでの研究活動④ 8. 研究結果の中間発表 9. グループでの研究活動⑤ 10. グループでの研究活動⑥ 11. グループでの研究活動⑦ 12. グループでの研究活動⑧ 13. 発表会に向けた資料作成 14. 発表会に向けた練習 15. 発表会 ※上記の計画で進めていく予定であるが、必要に応じて柔軟に変更する可能性がある。 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	ディスカッションやグループ活動への参加意欲（30％）、中間発表（20％）、発表会での最終成果（50％）で評価。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	研究の進捗状況によって、グループの講義外での打ち合わせが必要となる場合がある。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： 必要に応じて適宜示す。																							

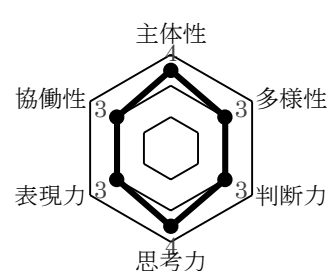
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	笠木 哲也								
授業の概要	キーワード： 植物、昆虫、多様性、外来種								
	＜テーマ＞ 春夏の自然探索：生物の多様性を調べる ＜概要＞ 環境大付近で生物の多様性を調べる。対象は植物または昆虫とする。春はさまざまな植物が開花する。その花にどのような昆虫が集まるのか調べる。異なる環境を調査し、生物多様性がどのように異なるのか調べる。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、身近な環境をフィールドとし、どのような植物が生育しているのか、またどのような昆虫が花に集まるのか調べ、標本を作成する。以上の活動を通して環境と生物多様性の関係を理解する。								
授 業 計 画	1. ガイダンスと調査、同定、標本作成作業の練習 2. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 3. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 4. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 5. 中間報告 1 回目 6. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 7. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 8. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 9. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 10. 中間報告 2 回目 11. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 12. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 13. フィールド調査と同定作業、標本作成作業 14. データ整理と発表練習 15. 発表会 (天候によってスケジュールを変更することがある。)								
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須				
評 価 方 法	取り組み姿勢（50%）、各回の活動報告レポートと出席状況（50%）								
	最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視				
講義外での学 習									
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 野外で動きやすい服装、靴を準備すること。飲み物も忘れずに。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成				
	学外フィールドに出る			●	学内で活動				
	時間割通りの実施			●	他の曜日の集合あり				
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： 授業時間内に紹介する								

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	金 相烈								
授業の概要	キーワード： ごみ調査、一人暮らし、排出抑制								
	<テーマ> 私たちの暮らしとごみ <概要> 本プロジェクト研究では、私たちの暮らしとごみがいかに密接に関連しているかを理解するために、わたしたちの毎日の暮らしから、どのようなごみが、どれくらい出ているか、また一人暮らしのごみの特徴を調べ、さらにごみ減量のための改善策を工夫し、検証する。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、自らやるべきことを見つけて主体的に取り組むこと、また、他の学生と協働しながら進めていくことを重視します。最終的には課題を明らかにし、筋道を立てて体系的に考える力を身につけることを目指します。								
授業計画	1. ガイダンス・自己紹介 2. 各地元におけるごみ処理について調査する。 3. 前週の調査について発表する。 4. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 1 5. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 2 6. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 3 7. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する 4 8. 1 か月間の結果をまとめ、発表する（中間発表）。 9. ごみ削減の対策案を発表する （班分け：①一人暮らしのごみ特徴を調査する班、ごみ削減の対策と検証を行う班） 10. 班ごとに調査 1 11. 班ごとに調査 2 12. 班ごとに調査 3 13. 班ごとに調査 4 14. これまでの調査内容のとりまとめ及び発表準備（発表練習） 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容				●		2 人以上のグループ活動が必須		
	チーム力（2 割）、コミュニケーション（2 割）、プレゼン力（2 割）、寄与度（1 割）、発表成果物（3 割）								
評価方法	最終成果物の完成を重視					●	各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習									
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成				●		他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施				●		他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： ◆参考書：								

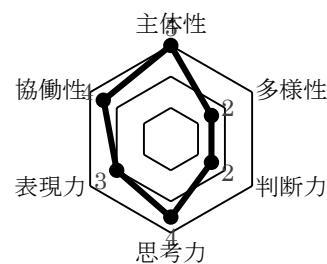
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	甲田紫乃								
授業の概要	キーワード： エネルギーコミュニケーション、エネルギー自立、持続可能なまちづくり								
	＜テーマ＞ エネルギー自立と持続可能なまちづくり ＜概要＞ エネルギーコミュニケーション（エネルギー科学の一領域）及びグループ・ダイナミクス（社会心理学の一領域）の学際的観点から、エネルギー政策とまちづくりについて多角的な分析・考察を行う。本プロジェクト研究1では、特に「考えること」「調べること」「表現すること」に焦点をあて、エネルギー科学に特徴的な学際的視野を用いて、各自の知見・見識を深化させる。 ※本プロジェクト研究では適宜映像資料も用いる予定である。中間報告会および最終報告会では、各グループがもう一方のグループの発表を聞き、質疑応答、意見交換を行うというものであるが、これも「エネルギーコミュニケーション」の一種であり、発表会もエネルギーコミュニケーションの一種である。								
到達目標	プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とする。本プロジェクトでは、この6つの能力を身につける過程で、以下の3点、すなわち、 ・各発電方法の違いを、リスクマネジメントの観点も含め、分かりやすく説明することができる。 ・エネルギー自立と持続可能なまちづくりの関係性を分かりやすく説明することができる。 ・知りたい情報をウェブのみならず、学術図書や学術論文、統計データなどから見つけ出し、分析することができる。 この3点を身につけることを目標とする。								
授業計画	1. イントロダクション①：グループ・ダイナミクス、エネルギーコミュニケーション 2. イントロダクション②：グループ・ダイナミクスの観点からのリスクマネジメント 3. イントロダクション③：エネルギー自立とまちづくり、学術論文の読み方・プレゼンの仕方などの基礎 4. 調査（1） 5. 調査（2） 6. 調査（3） 7. 調査（4） 8. 中間報告会及びディスカッション 9. 調査（5） 10. 調査（6） 11. 調査（7） 12. 調査（8） 13. 最終報告会及びディスカッション、発表準備 14. 発表練習 15. 発表会 ※順番等に変更になる可能性がある。								
	教員による計画・方針・意向を重視			●			学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視				●		学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	各回の取り組み状況（40%）、報告会（30%）、発表会（30%）								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	特になし。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施			●			他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： 特になし。 ◆参考書： 適宜紹介する。								

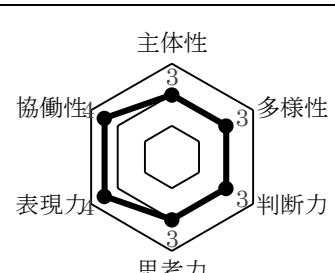


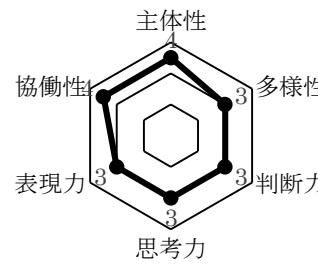
科目名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科目区分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教員名	佐藤 彩子								
授業の概要	キーワード： 福祉、福祉的課題、SDGs								
	<テーマ> 福祉と SDGs との関連を考えてみよう！ <概要> 我が国では世界に例を見ないスピードで高齢化が進展し、それに伴い後期高齢者や認知症患者が増加しています。これを受けて、2000 年には介護保険制度が導入されました。また 2013 年には障がい者差別解消法が制定され、高齢者や障がい者を対象とした法整備が進んでいます。このような中、2011 年 3 月には東日本大震災が、2024 年 1 月には能登半島地震が発生し、高齢者や障がい者は自力での避難が困難であるがゆえに、逃げ遅れたり命を落としてしまった者も存在しています。本プロジェクトでは、誰もが抱えうる身近な福祉的課題を SDGs のゴールやターゲット等と関連させながら、それを解決するための条件や方法を提案することを目的とします。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、輪読や映画鑑賞等を通して、物事を深く考える力、自らの考えを他者に伝える高いコミュニケーション力を身につけることを目標とします。								
授業計画	原則として、下記の授業計画で進めるが、受講生の理解度等に応じて柔軟に対応します。 1. オリエンテーション(教員・受講生の自己紹介、本プロジェクト研究の趣旨説明等) 2. 福祉の現状と課題 (ゲストスピーカー(鳥取県内企業経営者)による講義) 3. 福祉×SDGs に関する新聞記事紹介(受講生による発表) 4. 福祉的課題とその解決に関する取り組み事例の検討①(受講生による発表) 5. 福祉的課題とその解決に関する取り組み事例の検討②(受講生による発表) 6. 福祉的課題とその解決に関する取り組み事例の検討③(受講生による発表) 7. フィールドワーク：駅、商店街、公共施設等のバリアフリー化の検証 8. 福祉を題材とした漫画読み＋漫画を用いたグループワーク 9. 福祉を題材とした映画鑑賞① 10. 福祉を題材とした映画鑑賞②＋映画を用いたグループワーク 11. グループ発表 12. 発表会準備① 13. 発表会準備② 14. 発表会準備③ 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			●			学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視				●		学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	授業に対する参加度、発表とその成果物、成果発表会でのプレゼンテーション内容等を総合的に評価します。授業参加態度(20%)、授業内発表資料(30%)、ミニツツペーパー(15%)、成果発表会への取組姿勢と内容(35%)								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学習	日ごろから福祉に興味を持ち、積極的に情報収集を行って下さい。また、SDGs の基本的事項について理解を深めて下さい。								
履修上の注意事項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る				●		学内で活動		
	時間割通りの実施			●			他の曜日の集合あり		
教材	◆教科書： ◆参考書： 日本福祉のまちづくり学会編(2013)『福祉のまちづくりの検証 その現状と明日への提案』彰国社。その他、適宜、紹介します。								

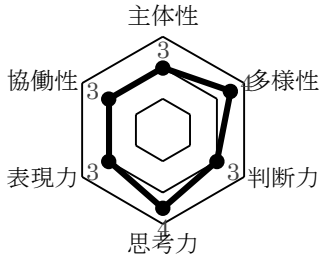
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	高井 亨								
授業の概要	キーワード： 自由の意味、研究、SDGs と SDGs ではないもの								
	<テーマ> 大学生の自由研究 <概要> 自らテーマを設定し、研究を遂行します。テーマは自由に選んで構いませんが、ひとつだけ制約があります。各自が選んだテーマが、どのように SDGs と関係するのか（しないのか）、つまり SDGs という視点から考察をおこなってください。みなさんが関心のあるテーマと SDGs それぞれについて深く理解することが求められます。とはいえ、楽しみながら探求できるテーマを見つけ、取り組むことが一番大事です。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、どの能力もまんべんなく必要です。しいていえば「主体性」と「思考力」を身につけることを目標にします。								
授業計画	1：イントロダクション（自己紹介など） 2：研究テーマの探索 3：各自の研究テーマの発表 4：研究テーマの練り直し 5：先行研究の調査 6：先行研究の調査 7：調査・分析 8：調査・分析 9：中間発表会 10：調査・分析 11：調査・分析 12：成果物づくり 13：成果物づくり 14：プロ研内での発表会 15：プロ研発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視			●		学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容			●		2人以上のグループ活動が必須			
評価方法	意欲（20％）・態度（20％）・成果（60％）の割合で評価する。								
	最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	意義のある成果を得るためには、講義時間外にも研究をすすめることが必須です。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●			他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る			●		学内で活動			
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： 適宜紹介する。 ◆参考書： 適宜紹介する。								

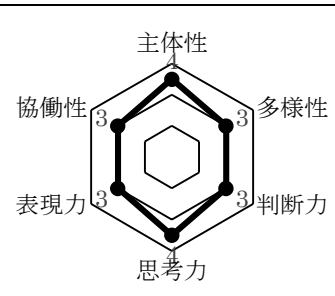
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	谷口 晴香								
授業の概要	キーワード： 人と動物の関係、アニマルウェルフェア、環境エンリッチメント								
	<テーマ> 公立鳥取環境大学のヤギをテーマに人と動物の共生のかたちを考えよう <概要> 本プロジェクトでは、公立鳥取環境大学のシンボルの 1 つであるヤギをテーマに、人と動物（例. 家畜、ペット）のよりよい共生のかたちを考えます。近年、アニマルウェルフェア（AW）の改善が SDGs の目標達成にも貢献することが指摘されています。AW の改善として「5 つの自由と対策」モデルが提案されており、そのうちの 1 つに「正常行動発現の自由」というものがあります。動物の習性に配慮しつつ動物を適正に扱うことは、AW の向上につながります。この視点で、本学のヤギを対象に動物行動学的な手法などを用いつつ AW を考えます。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、本学のヤギに着目しプロジェクトを立ち上げ、「人と動物が共生する上での問題点とその解決方法はなにか」を行動観察などの手法を用いつつ検討し、メンバーと協働し解決策を提案する能力を養います。								
授業計画	下記の講義計画で進めていく予定であるが、必要に応じて変更する場合があります。								
	1. イントロダクション								
	2. 研究テーマの模索								
	3. 各自の研究テーマの発表								
	4. グループ分け、テーマ決め								
5. グループにおけるテーマの発表・練り直し									
6. 調査準備・調査									
7. 調査・分析									
8. 調査・分析									
9. 調査・分析									
10. 調査・分析									
11. 調査・分析									
12. 成果物づくり									
13. 成果物づくり									
14. プロ研内での発表会									
15. 発表会									
教員による計画・方針・意向を重視					●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視			
個人による単独活動を許容				●		2 人以上のグループ活動が必須			
評価方法	個人研究の発表内容（20%）、グループ研究の発表内容(50%)、授業の取り組み状況（30%）により評価する。								
	最終成果物の完成を重視				●		各回、または複数回ごとの成果を重視		
講義外での学 習	グループごとの研究スケジュールによる								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成					●	他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る					●	学内で活動		
	時間割通りの実施			●			他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： 授業のなかで適宜紹介します								

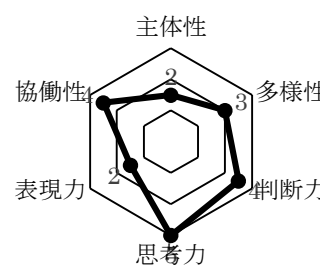


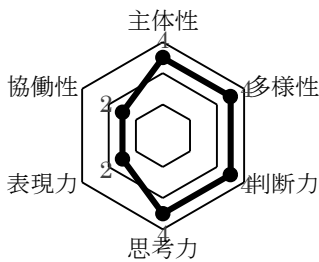
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	藤木 善夫								
授業の概要	キーワード： 障がい者雇用、働き方改革、ワークシェアリング、ケースメソッド								
	＜テーマ＞ 健常者と障がい者の共生について考える ＜概要＞障がい者雇用促進法に基づき、障がい者を雇用し、総務部に配属することにした中小企業のケース（事例）をグループで考え、総務部の現在の業務・業務量から障がい者を雇用したあとの業務分担、ワークシェアリングについてケースメソッドで考えていく。プロジェクト研究 3 と共同で行う。								
到達目標	プロジェクト研究 1 ～ 4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクト研究 1 では、ケースメソッド手法によってグループでケース（事例）を読み込み、その企業の与えられた課題（障がい者の雇用をきっかけとしたワークシェアリング、働き方改革）を考え、改善方策を提案する。								
授業計画	1. オリエンテーション（グループ分け） 2. 障がい者雇用促進法についてケースを読み理解する 3. 学外学習（親睦を兼ねて船岡竹林公園と大江ノ郷自然牧場へ） 4. 障がい者を雇用し、総務部に配属することにした中小企業のケースを読む 5. グループ討議（給与算定の方法、ワークシェアリングの考え方・方法） 6. グループ討議（給与算定、ワークシェアリングの課題の抽出） 7. グループ討議（給与算定、ワークシェアリングの課題の抽出） 8. グループ討議（給与算定、ワークシェアリングの改善策の検討） 9. グループ討議（給与算定、ワークシェアリングの改善策の検討） 10. グループ討議（給与算定、ワークシェアリングの改善策の決定） 11. グループ討議（給与算定、ワークシェアリングの改善策の決定） 12. 発表資料のグループ作成 13. 発表資料のグループ作成 14. 発表会の事前練習 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容			●		2人以上のグループ活動が必須			
評価方法	参加状況、学習意欲、最終成果物への貢献などを総合的に判断する。最終成果物への貢献を重視する。参加状況 10%、学習意欲 10%、最終成果物への貢献 80%。 グループで行いますから休まないでください。								
	最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	3 回目は船岡竹林公園は竹林やガーデンの見学とタケノコ試食。大江ノ郷はショップ見学と買物を予定しています。バスを予約しますので休まないでください。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web ・ 発表会用プレゼンのみ作成			●		他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： 教員作成資料 ◆参考書： なし								

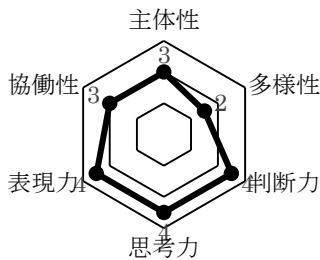
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	SDGs
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	藤田 恵津子								
授業の概要	キーワード： 学生生活、社会的資源、Quality of Life								
	＜テーマ＞ 学内の社会的資源を訪問し、学生生活の QOL を高める。 ＜概要＞ 本プロジェクト研究では、大学での学習への導入と動機付けを行い、チームで課題に取り組む。情報を収集し、調査解析する方法や討論の仕方、レポートのまとめ方、プレゼンテーション技法など大学で学問を学ぶ上で必要とされる基本的姿勢、スキルの修得を目的とし、スパイラル的にスキルアップする基本のステップとする。健康で実り多い学生生活を送るために、学内の社会的資源であるさまざまな部署を訪問し、当該の業務や目標、やりがい、課題などについて説明を受けるとともに、学生の自主性と社会性の育成をめざす。発表会では、学内の社会的資源の活用に関する発表を行う。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。プロジェクト研究 1 では、課題対象をよく理解することを重視する。そして、①社会人としてのマナーを身につけ、学内の社会的資源を訪問する、②当該部署の業務、目標、やりがい、課題を的確に把握し発信する、③訪問を通して、自主性と社会性の成長をめざす。								
授 業 計 画	1. オリエンテーション(研究の目的、方法、計画、報告)、班分け 2. 社会人としてのマナー学習（挨拶、自己紹介、電話対応）、次回の事前訪問準備 3. 各部署への事前訪問、次回訪問に向け担当グループによる事前学習 4. 訪問①保健室「体の健康」 5. 前回訪問の振り返り、次回訪問に向け担当グループによる事前学習 6. 訪問②学務課「大学生活の過ごし方」 7. 前回訪問の振り返り、次回訪問に向け担当グループによる事前学習 8. 訪問③情報メディアセンター「図書館の活用」 9. 前回訪問の振り返り、次回訪問に向け担当グループによる事前学習 10. 訪問④総務課「社会人のお金と社会保障」 11. 前回の振り返り、活動全般の振り返り 12. 報告会に向けた討議とプレゼンテーションの準備① 13. 報告会に向けた討議とプレゼンテーションの準備② 14. プレゼンテーションのリハーサルと相互評価 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2人以上のグループ活動が必須			
評 価 方 法	毎回の学習・活動状況・ミニレポート（50%）、発表（50%）を総合的に評価する。								
	最終成果物の完成を重視				●	各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	講義前には、関連する文献やメディアを通して理解を深める。授業後は、ボランティアや実習、日常生活などの体験を通して考察を深めておく。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●		他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： なし（毎回、資料を配布する）。 ◆参考書： 藤本・東編著 ワークショップ 大学生活の心理学 ナカニシヤ出版 2009 年								

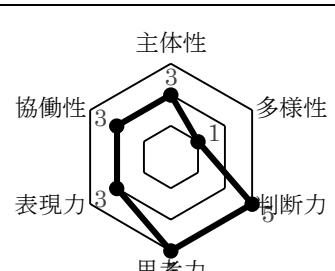
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	相川 泰																							
授業の概要	キーワード： 国際情勢、探求、思考 <テーマ> 国際報道などを通して世界の今に関心を持ち、探求し、考えよう <概要> TV のニュース番組で国際報道になると視聴率が下がるそうです。しかし、どちらの学部の専門も国際動向との関係が小さくありません。このプロジェクトでは日々放送される国際ニュースを出発点として各自の関心の所在を探り、それを各自・グループ・全体で積極的に深めつつ集約して、成果物に仕上げます。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、日頃の国際ニュースを出発点として、各自が世界こと諸外国や国際社会について関心テーマを設定し、官民の公開情報を手掛かりに、その「今」を、単なる「調べ学習」や「思い込み」に陥らないよう注意しつつ、探り、考えます。																							
授業計画	1. 顔合わせ、趣旨説明、当初の計画案の提示と確定 2. 直近 1 週間の国際ニュースから一部を視聴、疑問や興味を持った点の集約 3. 同上 4. 同上 5. 序盤の振り返りと、グループ分け要否の確認、必要な場合のグループ分け 6. 前回の仕切り直しに基づく作業、最後に進捗状況を確認・共有 7. 最初と最後に進捗状況を確認・共有・微調整しつつ作業を継続 8. 同上 9. 同上 10. 同上+成果物のまとめと発表会に向けた注意喚起 11. 最初と最後に進捗状況を確認・共有・微調整しつつ作業を継続 12. 新規情報の追加の原則停止、成果物・発表会発表の仮完成 13. 発表会発表の個別の予行演習と要修正点の確認・修正 14. 発表会発表の通しの予行演習と成果物の Web 掲載 15. 発表会 上記計画は必要や状況に応じて修正、変更することがある 各回の司会、記録等は 2 回目以降、持ち回りで担当する <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td></td><td>2 人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●		2 人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●		2 人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	円滑な運営への協力姿勢 2 割、各自作業 2 割、意見交換への参加姿勢 3 割、発表会準備と Web 成果物作成の過程および完成度 3 割の比重で評価 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	授業時間は集まってしかできない作業のためのものとし、各自、個人で出来ることは時間外に行うこと。授業支援システムも相互に積極的に活用すること。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●		他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●		他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： ◆参考書：																							

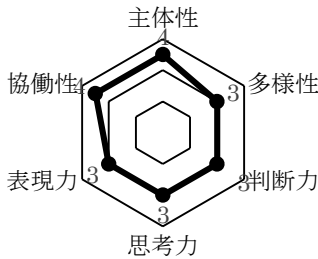
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	荒田 鉄二								
授業の概要	キーワード： 植民地主義、人種差別、暴力								
	＜テーマ＞ パレスチナ問題を考える ＜概要＞ ヤコヴ・ラブキンの著書「イスラエルとパレスチナ」を中心に幾つかの文献や映像資料から、これまで日本ではあまり語られてこなかったパレスチナ問題の背後に潜む近代ヨーロッパの植民地主義、人種差別、暴力性について学び、パレスチナ問題を多面的に考えます。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、自ら学ぶ主体性と思考力を重視します。								
授 業 計 画	1. ディスカッション 1：パレスチナ問題について知っていること 2. ヨーロッパにおけるユダヤ人迫害 3. シオニズムとは 4. イスラエルの建国（神話） 5. イスラエルの建国（現実） 6. ナクバと難民問題 7. ディスカッション 2：問題の根源は何か 8. ユダヤ人とイスラエル国家 9. 植民地支配と暴力を拒絶するユダヤ教の伝統 10. 「反ユダヤ主義」というレッテル貼り 11. パレスチナ問題に対する欧米先進国および日本の態度 12. ディスカッション 3：解決策はあるのか 13. 発表会スライドの取りまとめ 1 14. 発表会スライドの取りまとめ 2 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2人以上のグループ活動が必須			
	議論への参加状況（30%）、グループ内での役割の履行状況（40%）、発表会レポート（30%）により評価します。								
評価方法	最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	教科書をよく読んで理解しておいてください。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●			他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施		●			他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： ヤコヴ・ラブキン、「イスラエルとパレスチナ」（岩波ブックレット No. 1099） ◆参考書： なし								

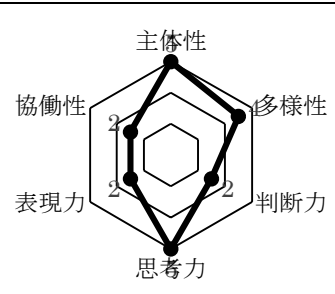
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	加藤 禎久																							
授業の概要	キーワード： 世界の中の日本、SDGs、DX ＜テーマ＞ Think Globally, Act Tottori ＜概要＞ 「地球規模で考え、足元から行動せよ」という標語を知っていますか。このプロジェクト研究では、私たちが生活している鳥取でできることを考えます。前半は、教員が指定する他の国に関する調査をし、後半は大学付近のとある場所での、地球規模の課題の解決につながる取り組みの提案をグループごとに行います。また、共通してオンライン共同編集作業とプロっぽいデザインができる Canva の使い方を身につけます。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、特に「考える」ことを重視します。良い提案するためには、事前の調査・分析が不可欠です。また、異なる考えを持つグループメンバーと協働して成果物を作り上げることも重要です。																							
授業計画	1. ガイダンス：テーマとプロ研の流れ（進め方）についての説明、注意事項、自己紹介 2. 前半グループ分け、担当国名発表、グループ内で自己紹介、調査テーマを話し合う 3. 調査テーマを教員と相談の上、決定 4. リサーチ 5. リサーチ 6. リサーチ 7. グループごとに中間発表会の準備 8. <u>中間発表会</u>（クラス内のみ） 9. 後半テーマサイト見学、グループワーク 10. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論 11. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論 12. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論 13. グループごとに最終発表会の準備 14. グループごとに最終発表会の準備、リハーサル 15. <u>最終発表会</u>（公開） <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	中間発表（35%）、最終発表（35%）、グループメンバー間の相互評価（10%）、出席（授業内活動参加）点（20%） <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	2 回の発表会の前には授業時間外でグループごとに集まり、追加調査をしたり発表の準備や練習をしたりする時間が必要になるので注意。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<u>原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u> ノートパソコンを持参すること。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： 必要に応じて適宜示す。																							

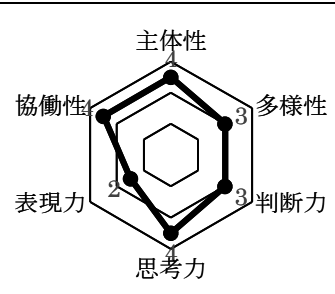
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	Sean BANVILLE banville@kankyo-u.ac.jp Office 4307								
授業の概要	キーワード： <u>Current affairs, news bias, global leaders</u>								
	<テーマ> Japanese and world news								
到達目標	・ To read newspapers and watch news for a greater understanding of world events								
	・ To gain a perspective of how global events affect Japan								
授業計画	・ To look at differences between Japanese and Western coverage of news events								
	・ To present on an issue of global importance (environment, AI, conflict, etc.)								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。								
	本プロジェクトでは、・・・								
到達目標	Students will read news stories in simple English. They will talk about the stories. They will then research the stories on Japanese news websites or Japanese newspapers to gain a broader understanding of the stories. Students will give their thoughts on events and make group presentations.								
									
授業計画	1. Orientation								
	2. News story 1								
授業計画	3. News story 2								
	4. News story 3								
授業計画	5. News story 4								
	6. News story 5								
授業計画	7. News story 6								
	8. News story 7								
授業計画	9. News story 8								
	10. News story 9								
授業計画	11. News story 10								
	12. Oral presentation preparation 1								
授業計画	13. Oral presentation preparation 2								
	14. Oral presentation preparation and rehearsal								
授業計画	15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視								
授業計画	●								
	学生の自発的な計画・方針・意向を重視								
授業計画	教員と学生の双方向性を重視								
	●								
授業計画	学生同士の双方向性を重視								
	個人による単独活動を許容								
授業計画	●								
	2 人以上のグループ活動が必須								
評価方法	Participation (30%), Quality of research & analysis (20%), Presentation (50%)								
	最終成果物の完成を重視								
講義外での学 習	●								
	各回、または複数回ごとの成果を重視								
履修上の注意事項	Students are required to read the news online or in newspapers, listen to radio news or watch TV news.								
	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
履修上の注意事項	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成								
	●								
履修上の注意事項	他にも何らかの成果物を作成								
	学外フィールドに出る								
履修上の注意事項	●								
	学内で活動								
履修上の注意事項	時間割通りの実施								
	●								
履修上の注意事項	他の曜日の集合あり								
	◆教科書： www.breakingnewsenglish.com Japanese / English newspapers								
教材	◆参考書：								

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	徳田 悠希								
授業の概要	キーワード： 南極大陸，南極海，極域科学，南極地域観測隊，昭和基地								
	<テーマ> 南極を知ろう <概要> 地球環境における南極の重要性を理解するため，各自が設定したテーマに則して調査を行います。また，それらの成果をもとに，南極の環境問題解決のための提案を行います。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、表現力・思考力・判断力の向上に重点を置きます。								
授業計画	1. オリエンテーション（教員・班員の自己紹介，研究目的，研究方法について） 2. 南極の概要 3. 研究計画の立案 4. 研究計画の立案 5. 南極の環境に関する調査 6. 南極の環境に関する調査 7. 南極の環境に関する調査 8. 調査データ分析 9. 調査データ分析 10. 調査データ分析 11. 調査結果のまとめ 12. 調査結果についての議論 13. 発表会に向けたプレゼンテーションの作成 14. 発表会に向けたプレゼンテーションのリハーサル 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視		●			学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容		●			2人以上のグループ活動が必須			
評価方法	活動状況，研究成果，発表内容，発表態度等を総合的に評価します。								
	最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	南極に関する知識を得るため，国立極地研究所の HP など閲覧する。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●		他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： ◆参考書：								

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	2	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	徳山瑞文																							
授業の概要	キーワード： 使える英語 英語苦手意識 流暢さ第一 <テーマ> 英語を使って楽しもう 学生のグローバルな視点を育むために不可欠な英語の実践運用能力を身につけてもらうのは、単語、イデオム、英文法を組み合わせたクイズみたいな勉強癖に抜け出すために、本来ならの外国語勉強の楽しさを体感して、将来的に自分が続いている勉強方法に探そうという意識を目標とします。																							
到達目標	プロジェクト研究1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、どんな方法で英語が使えるようになるが実感と分析しながら、他人の感想も参考して、結論は演習中で自分が確認できることを重点に置きます。																							
授業計画	1. オリエンテーション 2. 英語芝居の資料を指導する 3. 英語芝居の資料を指導する 4. 英語芝居の資料を指導する 5. 英語芝居の練習と課題解決 6. 英語芝居の練習と課題解決 7. 英語芝居の練習と課題解決 8. 使える英語についての結論 9. 英語苦手意識についての結論 10. 流暢さ第一を鍛えるための意識 11. 総合的な感想 12. グループ発表と英語芝居の演習確認 13. 発表会の準備 14. 発表会前の確認 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	授業参加姿勢(60%)，成果発表会でのプレゼンテーション内容(30%)，グループ活動への貢献度(10%)を総合的に評価します。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	英語芝居の練習																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： CIRQUE DU FREAK by Darren Shan ◆参考書： English Dictionary																							

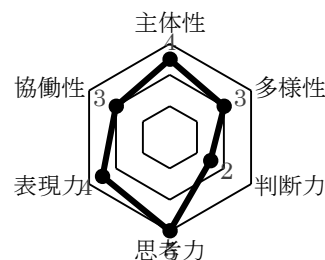
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	後期															
教 員 名	中村 弘子																							
授業の概要	キーワード： コミュニケーション力、異文化間比較、プレゼンテーション・スキル ＜テーマ＞ 「コミュニケーション力を比較する」 ＜概要＞ 就活で求められるスキルの一つである「コミュニケーション力」は個人的・社会的・文化的要因によって差異が生じる。本プロジェクトではコミュニケーション力について学び、考え、その差異について調査・分析し、さらにコミュニケーション力を伸ばす方策について考察し、成果物の発表を行う。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とする。 本プロジェクトでは、グループでリサーチした内容について各グループでクリティカルに分析することによって上記の能力の向上を図り、英語または日本語で原稿を用いず発表し、上記の各能力を各自が強化することを達成目標とする。																							
授業計画	1. オリエンテーション・グループ分け グループ発表の割り当て 2. コミュニケーション力とは 3. コミュニケーション力の異文化比較 4. グループ発表(1) 5. グループ発表(2) 6. グループ発表(3) 7. グループ発表(4) 8. グループ発表(5) 9. 質問紙の作成 10. データ分析 11. 調査結果の報告 12. 発表準備 13. 発表練習 14. 発表練習 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	授業での取り組み、グループワーク、グループ発表での貢献度等を総合的に評価する。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	グループ発表のための準備のほとんどは講義外になる。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●		他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●		他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： なし																							

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	柚洞 一央																							
授業の概要	キーワード： 地理的見方・考え方、現地で現象を探す ＜テーマ＞ 鳥取でグローバル社会を考える ＜概要＞ 鳥取という日本の地方都市にもグローバル化の波が押し寄せています。本プロジェクト研究では意外なグローバル化の現象をみなさんに見つけてもらいます。現地での聞き取り調査を重視しながら鳥取という地域社会の見えざる実情に迫ります。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の6つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、「知る」の向上に重きを置きます。また調査手法として地理学が得意とする現場で考える作業を重視します。																							
授業計画	1. 地理的な見方・考え方とはなにか 2. 地域社会で起きていることをどのように把握するのか 3. 主体的・対話的で深い学びとは 4. 地図で考える 5. 仮説を立てる① 6. 仮説を立てる② 7. 仮説を立てる③ 8. 仮説の共有—みんなで考える① 9. 仮説の共有—みんなで考える② 10. 困ったときは「助けて」と主張する① 11. 困ったときは「助けて」と主張する② 12. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する① 13. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する② 14. 調べてわかったことを相手に伝えるように表現する③ 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td>●</td><td></td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容		●		2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	最終成果物の内容を中心に評価します <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td>●</td><td></td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視	●			各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視	●			各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	授業内での作業だけでなく各自の興味関心にあわせて独自に調査探求をすること																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る		●		学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る		●		学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： ◆参考書：																							

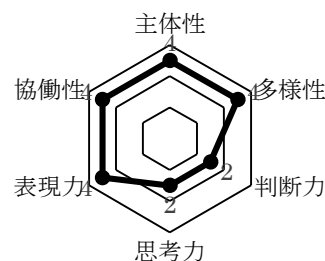
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	グローバル															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	吉田 聡																							
授業の概要	キーワード： プロジェクト、情報・認識の共有、文献講読 ＜テーマ＞ ニュージーランドの算数教科書を読む ＜概要＞ ニュージーランドの小学校課程相当の算数教科書の原書を用いて、ニュージーランドの算数教育を考察します。著者の意図やニュージーランド算数教育の背景を読み解くこと、教師の視点からの学習指導の方法の検討などをチームごとで行います。その活動の中で、プロジェクト、情報・認識の共有、文献講読を実践的に学びます																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 このプロジェクト研究 1 では、チームにおける自身の役割を理解し、チームにとって必要な活動とは何かを考え、それを実践していくことに主眼を置き、主体性、思考力、協働性の 3 つの能力の向上から優先的に図っていきます。																							
授業計画	1. 第 1 期・準備：本プロジェクトの説明、評価の説明、輪講担当割り当て 2. 第 1 期・準備：自己紹介、文献講読（統計教育、数学教育、算数授業研究） 3. 第 1 期・準備：文献講読、輪講の練習（担当教員による発表） 4. 第 2 期・輪講：各参加者が事前にニュージーランドの算数教科書を検討し、発表していきます。 5. 第 2 期・輪講：前回の続き 6. 第 2 期・輪講：前回の続き 7. 第 2 期・輪講：前回の続き 8. 第 3 期・チーム活動：各チーム 3～5 名程度に編成します。その中でニュージーランド算数教科書を輪講して行きます。 9. 第 3 期・チーム活動：前回の続き 10. 第 3 期・チーム活動：前回の続き 11. 第 3 期・チーム活動：前回の続き 12. 第 3 期・チーム活動：チームごとに発表準備を行います。 13. 第 3 期・チーム活動：前回の続き 14. 第 3 期・チーム活動：内部発表会 15. プロジェクト研究発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2 人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2 人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視		●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2 人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	活動報告（40%）、発表・聴講レポート（30%）、発表（30%） <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	講義時間にチームでの打合せや議論を行うので、調査や資料作成などの個人活動は講義時間外に行うようにして下さい。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td></td><td></td><td>●</td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td></td><td>●</td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： なし。資料を適宜配布する。 ◆参考書： Charlotte Wilkinson: Pearson Mathematics																							

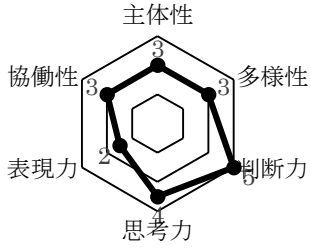
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	老田 智美								
授業の概要	キーワード： 観光地活性化、ユニバーサルツーリズム、多様性								
	<テーマ> 三朝温泉ユニバーサルツーリズムの提案 <概要> 人生 100 年時代の今、高齢や障がい等の有無にかかわらず、誰もが気兼ねなく参加できる旅行を目指す「ユニバーサルツーリズム」が注目されています。本プロジェクトでは、皆さんが「鳥取県外の観光客」となり、三朝温泉郷（鳥取県東伯郡三朝町）への旅行計画の作成と旅行（現地調査）を経て、ユニバーサルツーリズムを実現するための提案をしてもらいます。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、グループにわかれて旅行計画のための各設定や提案に関するディスカッション、資料作成を行います。現地調査を通じて調査方法や現状課題等を知る力を養うことを到達目標とします。								
授業計画	1. イントロダクション講義（ユニバーサルツーリズム、三朝温泉について） 2. グループ分け，三朝温泉に関する情報収集 3. グループ別「旅行計画」等の検討 4. 現地調査計画の検討 ① 5. 現地調査計画の検討 ② 6. 現地調査分析 7. 現地調査結果報告会 8. 提案に向けたグループディスカッション ① 9. 提案に向けたグループディスカッション ② 10. 提案に向けたグループディスカッション ③ 11. 提案内容の中間発表 12. 提案内容のブラッシュアップ 13. プレゼンポスター作成作業 14. 発表リハーサル 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視			●		学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2人以上のグループ活動が必須			
評価方法	成果物のほか、各回のグループワークの記録の提出を求め、併せて評価されます。 評価割合：各回グループワーク記録（50%）、成果物（50%）								
	最終成果物の完成を重視			●		各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	1 回は三朝温泉での現地調査を講義外に終日実施します。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●			他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る			●		学内で活動			
教 材	時間割通りの実施			●		他の曜日の集合あり			
	◆教科書： ◆参考書：								

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	市丸 夏樹								
授業の概要	キーワード： システム開発、プログラミング、Python 言語, 生成 AI								
	<テーマ> python でオリジナルゲームを作ろう!! <概要>このテーマでは、これからプログラミングを始めたい人を対象に、個々人で python 言語の文法や書式について学びつつ、いくつかの班に分かれてそれぞれこれまでにない、オリジナルゲームアプリの開発に挑戦します。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。特にプロジェクト研究 1 では、主に「新しいことを知る」ことを重視します。本プロジェクトでは、Python 言語の学習を通して、ソフトウェア開発に関する基礎知識と経験を深め今後の自発的学習への意欲と実践力を鍛えることを目指します。本プロジェクトでは、班やグループ単位でのディスカッションと共同作業を通じて多様性や共労性を育くむとともに、強力な生成 AI の力も借りながら、主体的に調査研究活動を行なうことにより思考力と判断力の育成を目指します。								
授 業 計 画	1. テーマ説明、イントロダクション 2. 自己紹介・サブテーマ希望調査 3. 班分け、サブテーマ決め 4. 研究計画・スライド作成 5. 中間発表会 6. 班活動(1) 7. 班活動(2) 8. 班活動(3) 9. 班活動(4) 10. 班活動(5) 11. 班活動(6) 12. 班活動(7)・スライド作成 13. 発表練習(リハーサル) 14. Web 資料の作成と公開 15. プロ研発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視 教員と学生の双方向性を重視 個人による単独活動を許容								
	学生による計画・方針・意向を重視 学生同士の双方向性を重視 2人以上のグループ活動が必須								
	最終成果物の完成を重視 各回、または複数回ごとの成果を重視								
評価方法	スライドや成果物等のフォーラム投稿と各班内の役割における貢献度によって評価されます。								
講義外での学 習	空き時間等に個人作業が必要である。								
履 修 上 の 注 意 事 項	<u>原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u> パソコンの配布後は、毎回各自のノートパソコンを持参すること。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 学外フィールドに出る 時間割通りの実施								
	他にも何らかの成果物を作成 学内で活動 他の曜日の集合あり								
	◆教科書： 廣瀬豪「Python で作って始めるゲーム制作入門 知識ゼロからのプログラミング&アルゴリズムと数学」, インプレス. ISBN 9784295017653, (2023) ◆参考書： 廣瀬豪「生成 AI+Python で作るゲーム開発入門」, ソーテック, ISBN-10 : 4800713323, (2024)								

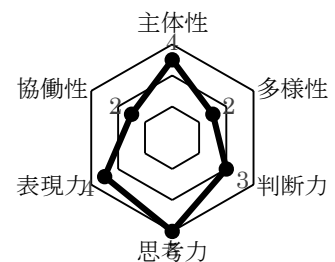


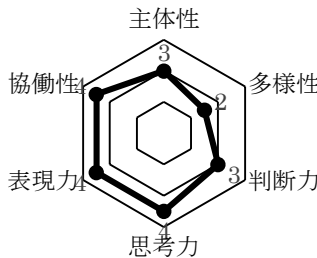
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般									
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期									
教 員 名	今井 正和																	
授業の概要	キーワード： クレイメーション、発想力、計画立案力、進捗管理能力 <テーマ> クレイメーションを作ろう <概要> 1 年生と 2 年生が協働してクレイメーションを制作し、その過程で経験する様々な問題を解決することで、問題解決能力だけでなく学ぶことに必要な能力、社会に出て活動するために必要となる能力を身につけます。																	
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、グループでのクレイメーション制作を通じて、映像内容の考案、制作工程の計画立案、進捗管理、活動の振り返りなど行います。これにより、先の 6 つの能力を身につけ、自らの力で何か一つのことをやり遂げられるようになることを目標とします。																	
授 業 計 画	1. オリエンテーション、自己紹介、グループ編成 2. 全体スケジュールの策定とあらすじの立案 3. あらすじの立案（1） 4. あらすじの立案（2） 5. 中間発表（1） 6. 制作と撮影（1） 7. 制作と撮影（2） 8. 制作と撮影（3） 9. 制作と撮影（4） 10. 制作と撮影（5） 11. 中間発表（2） 12. 映像編集（1） 13. 映像編集（2） 14. 活動の振り返りと発表準備 15. 発表会																	
	進捗状況により、具体的な内容は適宜変更されるので、注意してください。																	
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視													
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視													
	個人による単独活動を許容			●	2 人以上のグループ活動が必須													
評 価 方 法	授業支援システムを用いた毎回の進捗報告を 3 段階評価（1 4 回×3）し、2 回の中間発表（9 %×2）と最終発表会での発表レポート（4 0 %）を合わせて評価されます。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td colspan="5">各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視				
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視														
講義外での学 習																		
履 修 上 の 注 意 事 項	<u>原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u>																	
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成													
	学外フィールドに出る			●	学内で活動													
	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり													
教 材	◆教科書： 指定なし ◆参考書： 指定なし																	

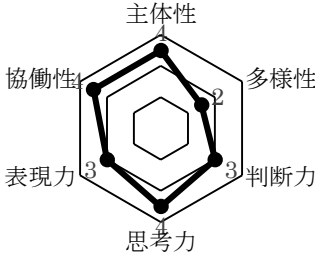


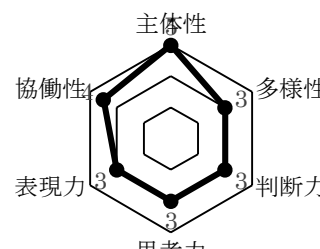
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	川崎 紘宗								
授業の概要	キーワード： 解釈、脱進歩史観、構築主義								
	<テーマ> 歴史上の出来事や伝承・伝説・行事の「意味」を解釈する。 <概要> 伝承や伝説等は現代人から見れば非合理的かつ非科学的に見えるかもしれませんが、しかし、それらは当時の人にとっては合理的な思考の末に生み出された、当時の最先端の知識の集大成（いわば「科学」）でした。では、それら伝承や伝説、さまざまな年中行事にはどのような意味が隠れているのでしょうか。また、歴史上の出来事にも何らかの「意味」が存在していますが、現在においてその正確な「意味」は見えず、ただ、その出来事には、このような「意味」があるのではないかと解釈することをする ことしかできません。 本授業では表面からは見えない背後に隠されている「意味」の解釈を試みていただきます。								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、特に「知る」ことを重視します。現実の課題を解決するためには、対象についてよく理解していなければいけません。他者の力も借りながら、課題を知るための調査する方法を身につけることを目標とします。								
授業計画	1. オリエンテーション①：研究方法の概要についての説明と事例紹介 2. オリエンテーション②：自己紹介とチーム分け 3. テーマの探索・調査① 4. テーマの探索・調査② 5. テーマの報告 6. 史料の探索・調査① 7. 史料の探索・調査② 8. 中間報告 9. 研究対象の解釈とその根拠についてのロジックを組み立てる① 10. 研究対象の解釈とその根拠についてのロジックを組み立てる② 11. 成果物の報告 12. プレゼンテーション資料の作成① 13. プレゼンテーション資料の作成② 14. リハーサル 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視				
	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視				
	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須				
評価方法	授業内での報告内容（10%）、最終レポート（20%）、最終成果物で評価される（70%）。								
	最終成果物の完成を重視			●	各回、または複数回ごとの成果を重視				
講義外での学 習	毎回の授業でチームごとに進捗状況を報告してもらおうので、その報告の準備およびチームごとに事前の打ち合わせをする必要があります。								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●	他にも何らかの成果物を作成				
	学外フィールドに出る			●	学内で活動				
	時間割通りの実施		●		他の曜日の集合あり				
教 材	◆教科書： ◆参考書： 西條勉『『古事記』神話の謎を解く：かくされた裏面』、中央公論新社（ISBN：9784121020956）								

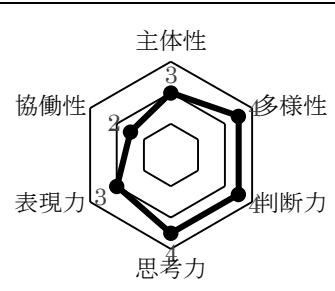
科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	重田 祥範（専任）								
授業の概要	キーワード： 健康気象，バイタルサイン，セラピー効果，クアオルト，SD 法								
	<テーマ> バイタルサインデータと SD 法を用いたクアオルト療法の定量的評価 A <概要> 緑の多い豊かな自然環境に囲まれたトレッキングコースを歩くと，身体 の健康だけではなく，日ごろの暮らしでストレスの溜まった心を癒す「セラピー効果」も 得られる．これはクアオルト療法と呼ばれ，心理面での治療とも言える．本プロジェク トでは，大山隠岐国立公園を対象として，バイタルサインデータの取得とセマンティッ ク・ディファレンシャル法を併用して，クアオルト療法について検証する．								
到達目標	ウェアラブル心拍センサの計測値と GPS の緯度・経度， 標高，時刻データを組み合わせることで，トレッキング コース中のバイタルサインを計測する． 自然環境を気象，情報学的な面からアプローチするこ とによって，自然環境について幅広く捉えることができ るようになる．また，取得データを可視化することによ って，表現力や思考力を身につけることができる．								
授 業 計 画	第 1 回：ガイダンス（プロジェクト研究の概要説明） 第 2 回：フィールドワークとは？（フィールド上での注意点等） 第 3 回：研究計画の立案 ① 第 4 回：研究計画の立案 ② 第 5 回： 第 6 回： 第 7 回： フィールドワーク（大山隠岐国立公園） 第 8 回： 第 9 回： 第 10 回：試料整理 第 11 回：データ分析 ① 第 12 回：データ分析 ② 第 13 回：発表準備 ① 第 14 回：発表準備 ② 第 15 回：研究発表会 ※プロジェクト研究 3 と合同で実施する．なお，悪天候が予想される場合は，日程を 変更する可能性がある．								
	教員による計画・方針・意向を重視				●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視			●		学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容		●			2 人以上のグループ活動が必須			
評 価 方 法	レポートならびに自然観察に対する取り組み方で評価される．								
	最終成果物の完成を重視			●			各回，または複数回ごとの成果を重視		
講義外での 学 習	授業外学修として，レポートの提出を求められることがある．								
履 修 上 の 注 意 事 項	<u>フィールドワークと研究発表会に参加することを単位取得の必要条件とする．</u>								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成			●			他にも何らかの成果物を作成		
	学外フィールドに出る				●		学内で活動		
	時間割通りの実施					●	他の曜日の集合あり		
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： 適宜プリント等を配布する．								



科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	戸 莉 丈 仁								
授業の概要	キーワード： 物理学，力学，スポーツ科学，テニス								
	<テーマ> テニスの科学 <概要> 伊達公子、錦織圭、大坂なおみなどの世界レベルのテニス選手の登場により、日本の中でのテニス人気が高まっています。本プロジェクト研究では、テニスに関する研究課題について、科学的な視点から解明に取り組みます。今回のプロジェクト研究ではテニスを題材に、課題設定および実験研究に取り組む中で、「研究」のプロセスを理解します。 (EX) ・テニスラケットの形状（フレーム厚，面形状，面の大きさ）と各ショットへの影響 ・テニスラケットの重さ・バランス・スイングウェイトと各ショットへの影響								
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、特に下記の 3 点について重視されます。 ① グループでの共同作業を効率よく行う協働性 ② 問題点を科学的に調査・分析し解決する思考力 ③ 調査結果を的確に伝える表現力								
授 業 計 画	<授業計画> 1. プロジェクトの概要説明、ガイダンス 2. テニスについての基礎的知識 3. 班分けおよび課題分担の決定 4～8. 実験、調査 9. 中間報告 10～13. 追加実験、追加調査、データ取りまとめ、発表資料作成 14. 発表練習 15. 発表会 ・テニスというスポーツを科学的に考えるテーマですので、特にテニスの経験者である必要はありません。 ・調査テーマ、実験計画は各班で決定します。								
	教員による計画・方針・意向を重視			●		学生の自発的な計画・方針・意向を重視			
	教員と学生の双方向性を重視				●	学生同士の双方向性を重視			
	個人による単独活動を許容				●	2人以上のグループ活動が必須			
評 価 方 法	最終的な成果物で評価されます								
	最終成果物の完成を重視		●			各回、または複数回ごとの成果を重視			
講義外での学 習	各班ごとの研究スケジュールによる								
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。								
	学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成		●			他にも何らかの成果物を作成			
	学外フィールドに出る				●	学内で活動			
	時間割通りの実施		●			他の曜日の集合あり			
教 材	◆教科書： 適宜資料配布 ◆参考書： 適宜資料配布								

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	西村 教子																							
授業の概要	キーワード： <u>生活環境、地域社会、人口減少</u> <テーマ> あなたのまちはどんなまちか？ <概要> みなさんがこれまで暮らしてきた「まち」はどんなまちでしたか？このプロジェクト研究では、みなさんの出身地を様々な視点からまちを比較して、まちの特徴や課題などを考えていきます。 授業は統計 dashboard や地域経済分析システム (RESAS) などを用いながら情報収集やデータの読み方についても学んでいきます。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクトでは、主体的に取り組む姿勢と思考力を身に着けること、特に積極的にグループで研究を進めていく協働性を重視されます。																							
授業計画	1. オリエンテーション 2. 人口減少社会が意味する日本や地域の社会経済に及ぼす影響 3. まちの特徴を調べる：人口 4. まちの特徴を調べる：産業 5. まちの特徴を調べる：隣接地域との比較 6. グループテーマ、グループの決定 7. まちの調査 1 8. まちの調査 2 9. まちの調査 3 10. まちの調査 4 11. 考察・まとめ 1 12. 考察・まとめ 2 13. 発表会準備 14. 発表会準備 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td></td><td></td><td>●</td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視			●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視			●	学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容			●	2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	授業の参画度①課題の取り組み、②授業時間内の発言等の参加、③グループ活動の参加)から総合的に判断されます。概ね①30%、②30%、③40%の割合となります。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	授業時間は進捗報告などの時間に用います。 そのため、調査やグループ活動の多くは時間外となります。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	<u>原則として、3分の2以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u> 演習授業です。必ず出席してください。(正当な理由による欠席を除く) <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： ◆参考書：																							

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期
教 員 名	光山 博敏								
授業の概要	キーワード： 不登校・引きこもり、ソーシャルメディア、コミュニティ <テーマ> 「不登校・引きこもり」と SNS との関係を考える <概要> 厚労省の『10～20 代を中心としたひきこもりをめぐる地域保健活動ガイドライン(暫定版)』によれば、1990 年代のひきこもり推計人数は 10 万人程度であるのに対し、2010 年は 61.3 万人、2020 年代は 146 万人と、大幅に増加していることがわかる。 本プロジェクト研究では、2007 年のスマホの登場を機に実に様々なアプリが開発されてきたことを鑑み、テクノロジーの発展に伴う社会変容と「不登校・引きこもり」との関係に着目し考察を行う。								
到達目標	「不登校・引きこもり」の増加とスマホとの関係性を分析しながら、 1. 情報収集ができる 2. 問題が理解できる 3. プレゼンテーションができる などの能力を身につけることを目標とします。								
授業計画	1. イントロダクション（プロジェクトの概要説明、グループ分けなど） 2. ディスカッション：「友人関係をめぐる問題」 3. ディスカッション：「学業不振」 4. ディスカッション：「教員との関係をめぐる問題」 5. ディスカッション：「家庭内の不和」 6. ディスカッション：核家族化による孤立感と疎外感 7. ディスカッション：オンラインでのいじめやハラスメント 8. ディスカッション：将来への不安 9. グループワーク：アセスメント① 10. グループワーク：アセスメント② 11. グループワーク：アセスメント③ 12. 中間プレゼンテーション 13. グループワーク④ 14. 最終調整 15. 発表会								
	教員による計画・方針・意向を重視					●	学生の自発的な計画・方針・意向を重視		
	教員と学生の双方向性を重視					●	学生同士の双方向性を重視		
	個人による単独活動を許容					●	2人以上のグループ活動が必須		
評価方法	積極的な授業への参加が求められます。グループ・ディスカッションやプレゼンなどのクオリティと貢献度で評価をされます。 最終成果物の完成を重視 各回、または複数回ごとの成果を重視								
講義外での 学 習	学内を想定しています。								
履 修 上 の 注 意 事 項	グループごとのワークとプレゼンなど、学習への強いコミットメントが求められる。 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 学外フィールドに出る 時間割通りの実施								
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： なし								

科 目 名	プロジェクト研究 1							テーマ カテゴリ	一般															
科 目 区 分	総合演習	履修区分	必修	配当年次	1	単位数	2	開講区分	前期															
教 員 名	吉田 高文																							
授業の概要	キーワード： ガーデニング、指定管理者制度、地域野菜 <テーマ> ガーデニングと地域の経営課題 <概要> TUES ナチュラルガーデンについて理解を深めるとともに、ガーデニングや造園業の実態を踏まえて、庭づくりや野菜栽培について学習する。また、地域の経営課題のうち、指定管理者制度と地域野菜（伝統野菜）の生産・消費を中心に取り上げて学習する。プロジェクト研究 3 と共同で行う。																							
到達目標	プロジェクト研究 1～4では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の 6 つの能力を身につけることを目標とします。 本プロジェクト研究 1では、とくに実態調査や観察を通じて理解する判断力、仮説を立てて検証する思考力およびガーデニング活動や地域野菜（伝統野菜）の学習から学び取ることのできる多様性等の能力を身につける。																							
授業計画	1. ガイダンス 2. ナチュラルガーデンの手入れ（1） 3. 学外活動（予定） 4. TUES ナチュラルガーデンについて 5. 指定管理者制度 6. 地域野菜・伝統野菜 7. 経営戦略と植物の生存戦略（1） 8. ナチュラルガーデンの手入れ（2） 9. 経営戦略と植物の生存戦略（2） 10. TUES ナチュラルガーデンの環境価値 11. 経営戦略と植物の生存戦略（3） 12. ナチュラルガーデンの手入れ（3） 13. 発表資料の作成（1） 14. 発表資料の作成（2） 15. 発表会 <table><tr><td>教員による計画・方針・意向を重視</td><td>●</td><td></td><td></td><td>学生の自発的な計画・方針・意向を重視</td></tr><tr><td>教員と学生の双方向性を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>学生同士の双方向性を重視</td></tr><tr><td>個人による単独活動を許容</td><td>●</td><td></td><td></td><td>2人以上のグループ活動が必須</td></tr></table>									教員による計画・方針・意向を重視	●			学生の自発的な計画・方針・意向を重視	教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視	個人による単独活動を許容	●			2人以上のグループ活動が必須
教員による計画・方針・意向を重視	●			学生の自発的な計画・方針・意向を重視																				
教員と学生の双方向性を重視		●		学生同士の双方向性を重視																				
個人による単独活動を許容	●			2人以上のグループ活動が必須																				
評価方法	参加状況、学習意欲、最終成果物への貢献が総合的に判断される。参加状況（フィードバックを含む）・学習意欲 45%、最終成果物（発表者レポートおよび指定聴講レポートを含む）への貢献 55%。 <table><tr><td>最終成果物の完成を重視</td><td></td><td>●</td><td></td><td>各回、または複数回ごとの成果を重視</td></tr></table>									最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視										
最終成果物の完成を重視		●		各回、または複数回ごとの成果を重視																				
講義外での学 習	最終成果物作成のための自主的な調査、研究が必要となる。15～30 時間程度。八頭町の船岡竹林公園および大江ノ郷自然牧場での観察調査を予定されている。																							
履 修 上 の 注 意 事 項	原則として、3 分の 2 以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。 一部の授業を遠隔授業で実施する。 <table><tr><td>学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他にも何らかの成果物を作成</td></tr><tr><td>学外フィールドに出る</td><td></td><td></td><td>●</td><td>学内で活動</td></tr><tr><td>時間割通りの実施</td><td>●</td><td></td><td></td><td>他の曜日の集合あり</td></tr></table>									学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成	学外フィールドに出る			●	学内で活動	時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり
学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成	●			他にも何らかの成果物を作成																				
学外フィールドに出る			●	学内で活動																				
時間割通りの実施	●			他の曜日の集合あり																				
教 材	◆教科書： なし ◆参考書： ポール・スミザー『ナチュラルガーデンをつくろう』2013 年、中央印刷株式会社、ISBN978-4-9907350-0-5																							